



CityGML変換サービス

サービス内容のご紹介

目次

- ▶ CityGML変換サービスの概要
- ▶ サービスの利用方法
- ▶ データ準備
- ▶ 補足事項
- ▶ 追加エラー検査

目次

- ▶ **CityGML変換サービスの概要**
- ▶ サービスの利用方法
- ▶ データ準備
- ▶ 補足事項
- ▶ 追加エラー検査

CityGML変換サービスの概要

- 概要

お客様が国、地方公共団体等より取得された原典データを、本サービスで定める要件に従って整理し、ご提供いただくことで、当協議会がCityGMLの変換を代行するサービスです。

- 対象となるお客様

日本国内に拠点を置く企業を対象とします。

CityGML変換サービスの概要

・対象となる地物型

国土交通省のPLATEAUで基本セットとされている6つの地物型が対象です。

- ・建築物（LOD1～LOD2.0）
- ・交通(道路)（LOD1）
- ・土地利用（LOD1）
- ・災害リスク（LOD1）
- ・都市計画決定情報（LOD1）
- ・地形（LOD1）

CityGML変換サービスの概要

• 料金体系

「基本料金」+「選択料金」+「オプション料金」で構成します。

- ・基本料金： 変換する都市ごとに発生する料金です。
- ・選択料金： 変換対象の地物型は選択式です。(特定の地物型だけを変換することも可能)
- ・オプション料金： 拡張製品仕様書、メタデータ、README、原典資料リストなどの
付属ドキュメントの作成を選択いただけます。

基本料金

都市ごとの環境構築費用



選択料金

建築物
交通(道路)
土地利用
災害リスク
都市計画決定情報
地形



オプション料金

付属ドキュメント作成
・拡張製品仕様書
・メタデータ
・README
・原典資料リスト

ジオメトリ追加検査(5回)

サービス料金表

地物		LOD	単価（税込）
基本料金（環境構築費）			165,000 円
建築物		LOD0	330,000 円～
		LOD1	
		LOD2.0	385,000 円～
交通（道路）		LOD1	242,000 円
土地利用		LOD1	242,000 円
災害リスク	洪水浸水想定区域	LOD1	264,000 円～
	津波浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	高潮浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	内水浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	ため池想定区域	LOD1	132,000 円～
	土砂災害警戒区域	LOD1	55,000 円
都市計画決定情報	都市計画区域	LOD1	55,000 円
	準都市計画区域	LOD1	55,000 円
	区域区分	LOD1	55,000 円
	用途地域	LOD1	55,000 円
地形（5m間隔）		LOD1	88,000 円
オプション項目	拡張製品仕様書		242,000 円
	オブジェクトリスト		
	メタデータ		88,000 円
	README		44,000 円
	原典資料リスト		242,000 円
	ジオメトリ追加検査（5回）		77,000 円

サービス料金表

- 基本料金

地物		LOD	単価（税込）
基本料金（環境構築費）			165,000 円
建築物		LOD0	330,000 円～
		LOD1	
		LOD2.0	385,000 円～
交通（道路）		LOD1	242,000 円
土地利用		LOD1	242,000 円
	洪水浸水想定区域	LOD1	264,000 円～

変換する都市ごとに発生する料金です。
基本料金:16.5万円

都市計画決定情報	準都市計画区域	LOD1	55,000 円
	区域区分	LOD1	55,000 円
	用途地域	LOD1	55,000 円
地形（5m間隔）		LOD1	88,000 円
オプション項目	拡張製品仕様書		242,000 円
	オブジェクトリスト		
	メタデータ		88,000 円
	README		44,000 円
	原典資料リスト		242,000 円
	ジオメトリ追加検査（5回）		77,000 円

サービス料金表

• 選択料金

地物		LOD	単価（税込）
基本料金（環境構築費）			165,000 円
建築物		LOD0	330,000 円～
		LOD1	
		LOD2.0	385,000 円～
交通（道路）		LOD1	242,000 円
土地利用		LOD1	242,000 円
災害リスク	洪水浸水想定区域	LOD1	264,000 円～
	津波浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	高潮浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	内水浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	ため池想定区域	LOD1	132,000 円～
	土砂災害警戒区域	LOD1	55,000 円
都市計画決定情報	都市計画区域	LOD1	55,000 円
	準都市計画区域	LOD1	55,000 円
	区域区分	LOD1	55,000 円
	用途地域	LOD1	55,000 円
地形（5m間隔）		LOD1	88,000 円

変換対象の地物型は選択式です。
（特定の地物型だけを変換することも可能）

サービス料金表

• 選択料金

地物		LOD	単価（税込）
基本料金（環境構築費）			165,000 円
建築物		LOD0	330,000 円～
		LOD1	
		LOD2.0	385,000 円～
交通（道路）		LOD1	242,000 円
土地利用		LOD1	242,000 円
災害リスク	洪水浸水想定区域	LOD1	264,000 円～
	津波浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	高潮浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	内水浸水想定区域	LOD1	132,000 円～

- 建築物は、**都市の規模**によって単価が異なります。
（東京特別区・政令指定都市・中核市・施行時特例市など）
- 建築物LOD2.0は、**作成棟数**や**テクスチャ付与の要否**によって異なります。

原典資料リスト		242,000 円
ジオメトリ追加検査（5回）		77,000 円

サービス料金表

• 選択料金

地物		LOD	単価（税込）
基本料金（環境構築費）			165,000 円
建築物		LOD0	330,000 円～
		LOD1	
		LOD2.0	385,000 円～
交通（道路）		LOD1	242,000 円
土地利用		LOD1	242,000 円
災害リスク	洪水浸水想定区域	LOD1	264,000 円～
	津波浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	高潮浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	内水浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	ため池想定区域	LOD1	132,000 円～
	土砂災害警戒区域	LOD1	55,000 円
都市計画決定情報	都市計画区域	LOD1	55,000 円
	準都市計画区域	LOD1	55,000 円
	区域区分	LOD1	55,000 円

洪水浸水想定区域は、**河川数**によって異なります。
その他の浸水想定区域は、**区域数**によって異なります。

README		44,000 円
原典資料リスト		242,000 円
ジオメトリ追加検査（5回）		77,000 円

サービス料金表

• オプション料金

地物		LOD	単価（税込）
基本料金（環境構築費）			165,000 円
建築物		LOD0	330,000 円～
		LOD1	
		LOD2.0	385,000 円～
交通（道路）		LOD1	242,000 円
土地利用		LOD1	242,000 円
	洪水浸水想定区域	LOD1	264,000 円～
	津波浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
	高潮浸水想定区域	LOD1	132,000 円～
		LOD1	132,000 円～
		LOD1	132,000 円～
		LOD1	55,000 円
		LOD1	55,000 円
		LOD1	55,000 円
	区域区分	LOD1	55,000 円
	用途地域	LOD1	55,000 円
地形（5m間隔）		LOD1	88,000 円
オプション項目	拡張製品仕様書		242,000 円
	オブジェクトリスト		
	メタデータ		88,000 円
	README		44,000 円
	原典資料リスト		242,000 円
	ジオメトリ追加検査（5回）		77,000 円

選択されたオプション項目に対しての追加料金です。

参考価格

建築物LOD0～LOD1のみ

狛江市

基本料金(16.5万円) + 建築物(33万円)

49.5万円

川崎市 (政令指定都市)

基本料金(16.5万円) + 建築物(41.8万円)

58.3万円

基本セット(6地物型)

川崎市 (政令指定都市)

基本料金(16.5万円) + 選択料金(259.6万円) ※1
+ オプション料金(61.6万円) ※2

337.7万円

仮定:

- ・建築物LOD2(テクスチャあり): 500棟
- ・災害リスク(洪水浸水想定区域): 5河川
- ・都市計画決定情報: 3区域

※1 選択料金(259.6万円)

- ・ 建築物: LOD0～LOD1: 41.8万円 + LOD2: 6.6万円(5.5万円 + (22円 * 500棟))
- ・ 交通(道路): 24.2万円
- ・ 土地利用: 24.2万円
- ・ 洪水浸水想定区域: 132万円(26.4万円 * 5河川)
- ・ 土砂災害警戒区域: 5.5万円
- ・ 都市計画決定情報: 16.5万円(5.5万円 * 3区域)
- ・ 地形: 8.8万円

※2 オプション料金(61.6万円)

- ・ 拡張製品仕様書・オブジェクトリスト: 24.2万円
- ・ メタデータ: 8.8万円
- ・ README: 4.4万円
- ・ 原典資料リスト: 24.2万円

CityGML変換サービスの概要

- サービス時間帯

9時～17時

土日祝日・年末年始を除きます。

- 作業工期

お客様から原典データを受領してから**約10営業日**です。

※原典データの差替えが発生した場合や、お申込みが混み合っている場合は、
さらにお時間をいただく場合がございます。

目次

- ▶ CityGML変換サービスの概要
- ▶ サービスの利用方法
- ▶ データ準備
- ▶ 補足事項
- ▶ 追加エラー検査

サービスの利用方法

- マニュアル・データ定義資料のダウンロード

紹介ページよりユーザーマニュアル、属性定義書、サンプルデータをダウンロードします。



- ユーザーマニュアルの確認

サービスの利用方法や準備するデータの要件を確認します。

- サービスのお申し込み



かんたん見積ページより、サービスのご利用を申し込みます。

かんたんお見積り

かんたんお見積

ご注文内容を入力するだけで、お見積をメールにて受取りいただけます。
また、ご相談やサービスに関するお問い合わせは[こちら](#)から。

会社概要

会社名(団体名) 必須	(例) 一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会事務局
お名前(担当者) 必須	(例) 山田 花子
フリガナ 必須	(例) ヤマダ ハナコ
電話番号	(例) 000-0000-0000
メールアドレス 必須	(例) abc@x x x .com
メールアドレス(確認用) 必須	確認のため、再度メールアドレスをご入力ください

- お客様情報の入力

依頼内容

都市名 必須	(例) 東京都渋谷区
建築物 ※最も近いLODを選択してください	☐ 建築物モデル (LOD0/LOD1) ☐ 建築物モデル (LOD2・テクスチャなし) 区域数を入力 区域 ☐ 建築物モデル (LOD2・テクスチャあり) 区域数を入力 区域
交通(道路)	☐ 交通(道路)モデル (LOD1)
土地利用	☐ 土地利用モデル (LOD1)
災害リスク(水害)	☐ 洪水浸水想定 災害リスクモデル (LOD1) 区域数を入力 区域 ☐ 津波浸水想定 災害リスクモデル (LOD1) 区域数を入力 区域 ☐ 高潮浸水想定 災害リスクモデル (LOD1) 区域数を入力 区域 ☐ 内水浸水想定 災害リスクモデル (LOD1) 区域数を入力 区域 ☐ ため池ハザードマップ 災害リスクモデル (LOD1) 区域数を入力 区域
災害リスク(土砂)	☐ 土砂災害 災害リスクモデル (LOD1)
都市計画決定情報	☐ 都市計画区域 (LOD1) ☐ 準都市計画区域 (LOD1) ☐ 区域区分 (LOD1) ☐ 用途地域 (LOD1)
地形	☐ 地形 (LOD1) ※点群 ☐ 地形 (LOD1) ※TIN
オプション	☐ 拡張製品仕様書、Objectlist ☐ メタデータ ☐ 添付資料リスト ☐ README
その他・備考欄	補足事項などがあればご記入ください

- 依頼項目の選択

お見積り～ご発注

・ お見積り

お見積書と注文書をご入力いただいたメールアドレスへ
担当者からお送りします。

・ ご発注

注文書をご返送いただきますとご契約が完了します。
続いて原典データのご準備をお願いします。

お 見 積 書

2024年9月2日
見積番号 202400000-1

御中

お見積金額 ¥1,683,000 (税込金額)

本見積有効期限 1か月

一般社団法人
社会基盤情報流通推進協議会
〒227-0034
神奈川県横浜市青葉区桂台一丁目15番地28
TEL:03-6455-1845 FAX:03-6455-1846
担当 本間

【明 細】

No.	データ名称	単価	数量	期間	金額
1	基本料金 (環境構築費)	150,000	1		150,000
2	建築物 LOD2 1930棟 中核市	300,000	1		300,000
3	交通 (道路)	220,000	1		220,000
4	土地利用	220,000	1		220,000
5	災害リスク (水害)	120,000	1		120,000
6	災害リスク (土砂)	50,000	1		50,000
7	都市計画決定情報 (都市計画区域、区域区分、用途地域)	50,000	1		50,000
8	地形 ※TIN	80,000	1		80,000
9	拡張製品仕様書、オブジェクトリスト	220,000	1		220,000
10	メタデータ	80,000	1		80,000
11	README	40,000	1		40,000
12	原典資料リスト	220,000	1		220,000
小計					1,530,000
消費税 (10%)					153,000
合計					1,683,000

備考

サービスの利用方法

- データ準備

ユーザーマニュアルに記載のデータ要件にしたがって、原典データを準備します。

- 1)お申込みされる地物の、幾何オブジェクト(図形データ)
- 2)お申込みされる地物の、属性情報のデータ(属性データ)
- 3)ご記入いただいた「属性定義書.xlsx」(Webサイトから記入フォームをダウンロード)



1) 図形データ

KEY	buildid	LOCHID	min_x	loft_h	method	name	creationDate	measuredBy
0002347	0002347	0002347	15.939999999999999	1.9179700000000001	1519749	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	22.007700000000000
0002348	0002348	0002348	15.939999999999999	1.6179700000000001	1519750	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	21.530099999999999
0002349	0002349	0002349	14.000000000000000	3.0000000000000001	1519749	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	17.000000000000000
0002346	0002346	0002346	15.400000000000000	6.5702400000000001	1519750	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	23.002399999999999
0002343	0002343	0002343	15.260000000000000	6.8100000000000001	1519750	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	23.000000000000000
0002344	0002344	0002344	37.260000000000000	7.2969300000000001	1519750	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	44.780000000000000
0002340	0002340	0002340	16.010000000000000	3.8601000000000001	1519750	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	18.880000000000000
0002342	0002342	0002342	15.800000000000000	7.6170000000000001	1519750	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	22.871000000000000
0002358	0002358	0002358	14.140000000000000	2.7794600000000001	1519749	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0001-01-01	16.919000000000000

2) 属性データ

[illegible]

3) 属性定義書

サービスの利用方法

- 3D都市モデルの納品、ご請求

ご提供いただいたデータをもとに、当協議会が3D都市モデルへの変換作業を行います。

作業完了後、当協議会からデータのダウンロードURLをお客様にメールでお知らせし、納品いたします。

納品と同時に納品書と請求書をお送りいたしますので、納品月の翌月末までにお支払いをお願いします。

- データの受け渡し方法

ファイル転送サービスProselfを利用して、ファイルを受け渡します。

ファイルサイズが上限を超えて転送できない場合、別途受け渡し方法をご相談させていただきます。

ご相談・お問い合わせ

・お問い合わせ方法



お問い合わせページより、当協議会にご連絡いただけます。

・お問合わせ内容の例

- ・本サービスの利用方法
- ・申込フォームの記入方法
- ・標準サービスに含まれないドキュメントや属性のご相談

ご相談・お問い合わせ

ご相談・お問い合わせ

ご相談やサービスに関するお問い合わせをお送りください。2営業日以内に担当者からご連絡させていただきます。
また、サービスのお申し込みは[こちら](#)から。

会社名/団体名 必須	《例》一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会事務局
お名前 (担当者) 必須	《例》山田 花子
フリガナ 必須	《例》ヤマダ ハナコ
所在地	住所自動入力
	<input data-cs="2" data-kind="parent" type="text" value="都道府県"/>
	《例》東京都渋谷区代々木1-10-5 代々木伊勢ローヤルコーポ304号室
電話番号	《例》000-0000-0000
メールアドレス 必須	《例》abc@x x x.com
メールアドレス (確認用) 必須	確認のため、再度メールアドレスをご入力ください
その他・備考欄	補足事項などあればご記入ください

・お客様情報の入力

・お問い合わせ内容の入力

本サービスの利用方法やサービス内容に関する
ご相談以外のお問い合わせには対応いたしかね
ます。

・お問い合わせ内容の送信

入力内容を確認する



お問い合わせ内容を送信します。

ご相談・お問い合わせ



対応しかねるお問い合わせ

- CityGMLやPLATEAUの製品仕様に関する質問
- ジオメトリエラーの修正方法
- 地形TINサーフェスの作成方法
- 道路ポリゴンの交差部の分割ルール及び分割方法
- テクスチャのつけ方
- 3Dモデル(OBJなど)の作成方法 …など

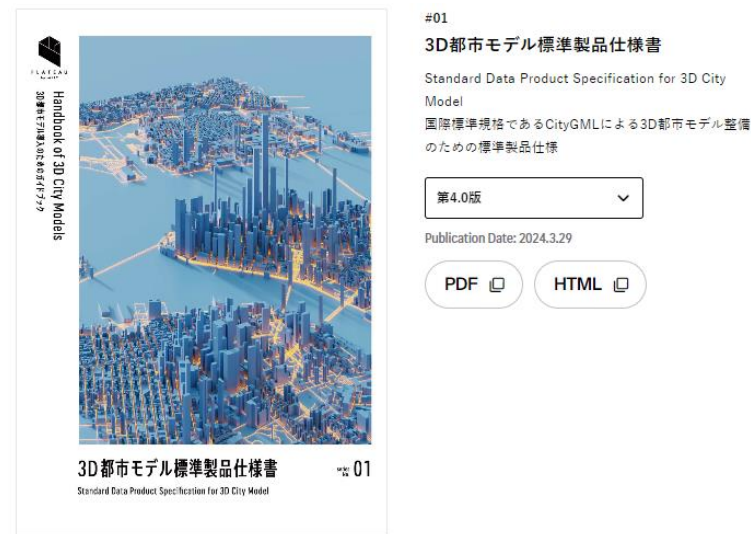
【ご参考】技術仕様について

- 国土交通省「PLATEAU」公式サイト

<https://www.mlit.go.jp/plateau/>



- 3D都市モデル標準製品仕様書



- 3D都市モデル標準作業手順書



目次

- ▶ CityGML変換サービスの概要
- ▶ サービスの利用方法
- ▶ **データ準備**
- ▶ 補足事項
- ▶ 追加エラー検査

データ定義資料

- データ定義資料の取得

サービス紹介ページ（Webサイト）から、事前にダウンロードをお願いします。

ユーザーマニュアル

詳しいお申込みの方法はこちらをご覧ください。

ダウンロード

属性定義書

ご提供いただくデータについて、詳細な定義はこちらをご覧ください。

ダウンロード

サンプルデータ

お客様にご提供いただくデータ及び本サービスによる成果品のサンプルデータをこちらからダウンロードできます。

ダウンロード

データ定義資料

- ユーザーマニュアル

本サービスの詳しい利用方法を記載しています。

ユーザーマニュアル

詳しいお申込みの方法はこちらをご覧ください。

📄 ダウンロード



属性定義書

ご提供いただくデータについて、詳細な定義はこちらをご覧ください。

📄 ダウンロード

サンプルデータ

お客様にご提供いただくデータ及び本サービスによる成果品のサンプルデータをこちらからダウンロードできます。

📄 ダウンロード

データ定義資料

・属性定義書

①依頼内容のチェックシート

3D都市モデルの作成にあたり、お客様よりご提供いただく図形データと属性データの要件を各地物型ごとにまとめたものです。

②主題属性の要件定義

3D都市モデルに付与できる属性と属性の要件一覧です。

③オプション項目の入力フォーム

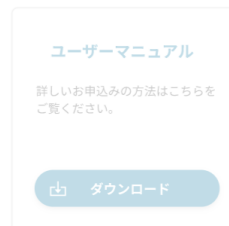
オプション項目となるREADME、メタデータ、objectlist・拡張製品仕様書、
原典資料リストの作成をご希望の場合の情報の記入フォームです。

④各地物の要件チェックシート

ご準備いただいたデータが要件を満たしているか、本チェックシートでご確認ください。

⑤属性のデータ記述型定義

データ記述型の定義文書となります。



データ定義資料

・ サンプルデータ

お客様にご提供いただきたい原典データのサンプルと、それを基に作成した3D都市モデルの成果品のサンプルです。

ユーザーマニュアル

詳しいお申込みの方法はこちらをご覧ください。

📄 ダウンロード

属性定義書

ご提供いただくデータについて、詳細な定義はこちらをご覧ください。

📄 ダウンロード

サンプルデータ

お客様にご提供いただくデータ及び本サービスによる成果品のサンプルデータをこちらからダウンロードできます。

📄 ダウンロード



データ準備

- 原典データの取得・作成

3D都市モデルの構築に必要な、地物データ(図形データ、属性データ)を取得・作成してください。

- 原典データの整理

ユーザーマニュアルに記載した各地物型のデータ要件に基づいて図形データ及び属性データを準備します。

データ準備

- 原典データの提供

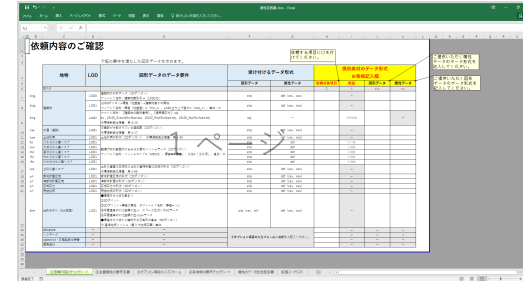
ご準備いただいたデータおよびご記入いただいた属性定義書の提供をお願いします。



1) 図形データ

KEY	buildingID	LODID	min_x	min_y	max_x	max_y	name	creationCs	measuredCs
1	0002387	0002387	16.0000000000	5.9570000000	15.9570000000	5.9570000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	22.3070000000
2	0002388	0002388	15.9599999999	6.1787000000	15.9570000000	6.1787000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	21.5387999999
3	0002389	0002389	14.0000000000	5.0000000000	15.9570000000	5.0000000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	17.0000000000
4	0002390	0002390	15.4000000000	6.5700000000	15.9570000000	6.5700000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	22.0329999999
5	0002391	0002391	15.2000000000	6.1820000000	15.9570000000	6.1820000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	23.4427999999
6	0002392	0002392	17.4000000000	7.2900000000	15.9570000000	7.2900000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	44.7895999999
7	0002393	0002393	16.2000000000	5.6000000000	15.9570000000	5.6000000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	19.8001999999
8	0002394	0002394	15.1800000000	7.6370000000	15.9570000000	7.6370000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	22.8170000000
9	0002395	0002395	14.1400000000	2.7794000000	15.9570000000	2.7794000000	〇〇〇〇〇〇〇〇	0001-01-01	16.9194000000

2) 属性データ



3) 属性定義書

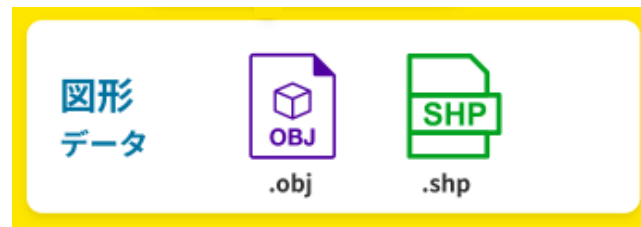
※ 建築物を例として次に説明します。

データ準備

➤ 1) 図形データ

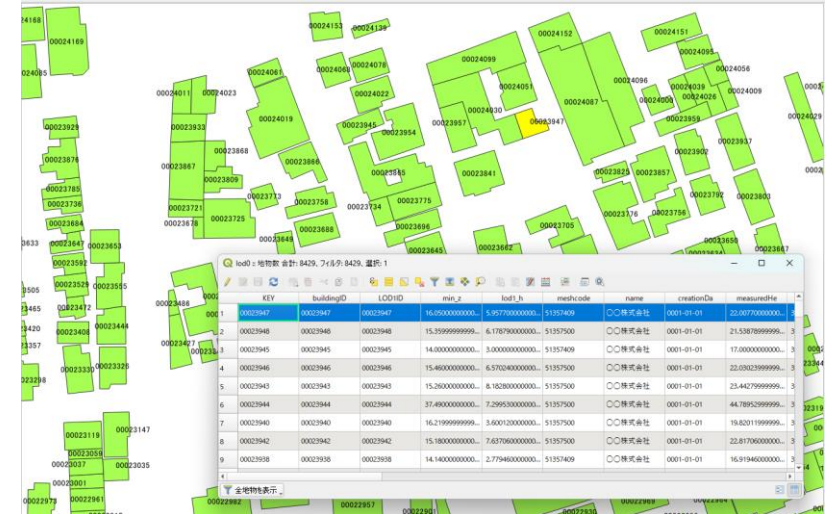
✓データフォーマット:

- LOD0/LOD1: SHPファイル
- LOD2: OBJファイル



✓必須要件:

- LOD0/LOD1: 建築物の識別子(1棟毎のユニークな番号)と高さ情報が必要です。
- LOD2: LOD1と紐づけする建築物の識別子(1棟毎のユニークな番号)と境界面の名称(屋根・壁・底面などの区別)が必要です。



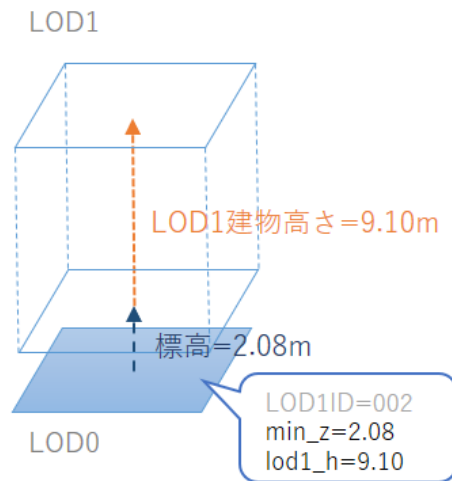
LOD0とLOD1のSHP

データ準備

➤ 1) 図形データ

✓ 建築物LOD0/LOD1

- 建築物のCityGMLは、LOD0とLOD1が必須になります。
- データフォーマット: SHPファイル
- 建築物の識別子が必要です。(1棟毎のユニークな番号)
- LOD1モデルを作成するための高さ情報が必要です。



建物の識別子:「LOD1ID」
地盤高(標高値):「min_z」
LOD1立ち上げ高さ:「lod1_h」

lod0 = 地物数 合計: 8429、フィルタ: 8429、選択: 1

	KEY	buildingID	LOD1ID	min_z	lod1_h	meshcode	name	creationDa	measuredHe
1	00023947	00023947	00023947	16.050000000000...	5.957700000000...	51357409	〇〇株式会社	0001-01-01	22.007700000000...
2	00023948	00023948	00023948	15.359999999999...	6.178790000000...	51357500	〇〇株式会社	0001-01-01	21.538789999999...
3	00023945	00023945	00023945	14.000000000000...	3.000000000000...	51357409	〇〇株式会社	0001-01-01	17.000000000000...
4	00023946	00023946	00023946	15.460000000000...	6.570240000000...	51357500	〇〇株式会社	0001-01-01	22.030239999999...
5	00023943	00023943	00023943	15.260000000000...	8.182800000000...	51357500	〇〇株式会社		279999999999...
6	00023944	00023944	00023944	37.490000000000...	7.299530000000...	51357500	〇〇株式会社		17793529999999...
	00023940	00023940	00023940	16.219999999999...	3.600120000000...	51357500	〇〇株式会社	0001-01-01	19.820119999999...
	00023942	00023942	00023942	15.180000000000...	7.637060000000...	51357500	〇〇株式会社	0001-01-01	22.817060000000...
	00023938	00023938	00023938	14.140000000000...	2.779460000000...	51357409	〇〇株式会社	0001-01-01	16.919460000000...

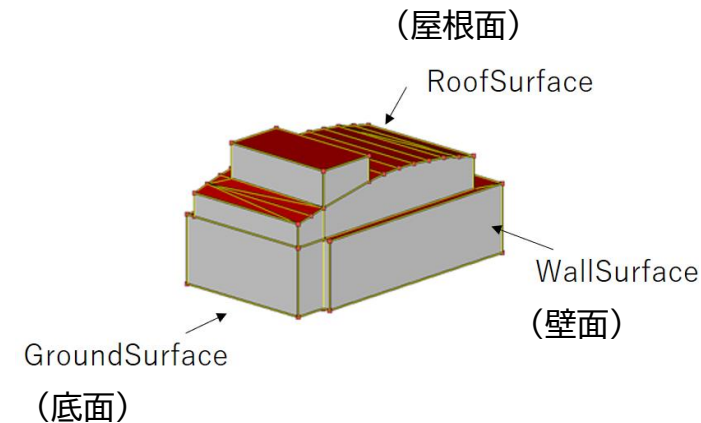
全地物を表示

データ準備

➤ 1) 図形データ

✓ 建築物LOD2

- 建築物のCityGMLでは、LOD2の作成は任意です。
- データフォーマット:OBJファイル
- 建築物の識別子が必要です。(1棟毎のユニークな番号)
- 建築物を構成する境界面(屋根面・壁面・底面)でデータを区分する必要があります。
- OBJのファイル名称は「建築物の識別子(LOD1ID)」+「_」(アンダーバー)+「境界面の名称」とします。
- LOD2のフォルダ構成は右表の通りとします。



LOD2境界面で区分したOBJ

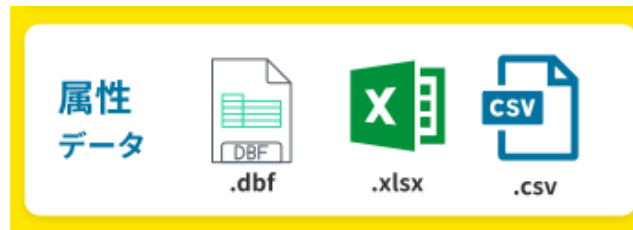
LOD2データのフォルダ構成とファイル名

📁 建築物	ルートフォルダ
└─ 📁 LOD2	フォルダ名称LOD2
└─ 📁 0001	建築物の識別子
└─ 📄 0001_GroundSurface.obj	建築物の識別子_底面の地物型
└─ 📄 0001_RoofSurface.obj	建築物の識別子_屋根の地物型
└─ 📄 0001_WallSurface.obj	建築物の識別子_壁面の地物型

データ準備

➤ 2) 属性データ

✓データフォーマット:dbfまたは、xlsx、csvが必要です。



L0D1モデル作成に必要な情報

3D都市モデルに付与する属性の情報

建築物の識別子	地盤高	建物高さ	建築物ID	建物名称	データ作成日	建物区分	建物用途	建築年	計測高さ	地上階数	地下階数	都道府県コード	市区町村コード
LOD1ID	min z	lod1 h	buildingID	name	creationDa	class	usage	yearOfCons	measuredHe	storeysAbo	storeysBel	prefecture	city
001	2.01	6.3	001	〇〇区役所	0001-01-01	3001	401	0001	10	2	0	27	27221
002	2.08	9.1	002	〇〇郵便局	0001-01-01	3002	401	0001	10	2	0	27	27221
003	2.1	3.1	003		0001-01-01	3001	401	0001	10	1	0	27	27221

属性のフィールド名称は属性定義書に定めた属性名称を使用すること。

データ準備

➤ 2) 属性データ

L0D1モデル作成に必要な情報

3D都市モデルに付与する属性の情報

建築物 の識別 子	地盤高	建物高さ	建築物ID	建物名称	データ作成日	建物区分	建物用途	建築年	計測高さ	地上階数	</gml:dictionaryEntry> </gml:dictionaryEntry> ▼<gml:Definition gml:id="Building.c <gml:description>分類しない建物< <gml:name>3000</gml:name> </gml:Definition> </gml:dictionaryEntry> </gml:Dictionary>			
	L0D1ID	min z	lod1 h	buildingID	name	creationDa	class	usage	yearOfCons	measuredHe	storeysAbo	storeysBel	prefecture	city
	001	2.01	6.3	001	〇〇区役所	0001-01-01	3001	401	0001	10	2	0	27	27221
	002	2.08	9.1	002	〇〇郵便局	0001-01-01	3002	401	0001	10	2	0	27	27221
	003	2.1	3.1	003	0	0001-01-01	3001	401	0001	10	1	0	27	27221

```
<gml:name>Building_class</gml:name>
▼<gml:dictionaryEntry>
  ▼<gml:Definition gml:id="Building_class_1">
    <gml:description>普通建物</gml:description>
    <gml:name>3001</gml:name>
  </gml:Definition>
</gml:dictionaryEntry>
▼<gml:dictionaryEntry>
  ▼<gml:Definition gml:id="Building_class_2">
    <gml:description>堅ろう建物</gml:description>
    <gml:name>3002</gml:name>
  </gml:Definition>
</gml:dictionaryEntry>
▼<gml:dictionaryEntry>
  ▼<gml:Definition gml:id="Building_class_3">
    <gml:description>普通無壁舎</gml:description>
    <gml:name>3003</gml:name>
  </gml:Definition>
</gml:dictionaryEntry>
▼<gml:dictionaryEntry>
  ▼<gml:Definition gml:id="Building_class_4">
    <gml:description>堅ろう無壁舎</gml:description>
    <gml:name>3004</gml:name>
  </gml:Definition>
</gml:dictionaryEntry>
▼<gml:dictionaryEntry>
  ▼<gml:Definition gml:id="Building_class_5">
    <gml:description>分類しない建物</gml:description>
    <gml:name>3000</gml:name>
  </gml:Definition>
</gml:dictionaryEntry>
</gml:Dictionary>
```

gml:CodeType属性は使用される
「コードリスト」から選択して付
与すること。

➡ コードリストは、「属性定義書」やPLATEAU「標準製品
仕様書」からご確認いただけます。

データ準備

➤ 2) 属性データ

L0D1モデル作成に必要な情報

3D都市モデルに付与する属性の情報

建築物 の識別 子	地盤高	建物高さ	建築物ID	建物名称	データ作成日	建物区分	建物用途	建築年	計測高さ	地上階数	地下階数	都道府県 コード	市区町村 コード
L0D1ID	min z	lod1 h	buildingID	name	creationDa	class	usage	yearOfCons	measuredHe	storeysAbo	storeysBel	prefecture	city
001	2.01	6.3	001	〇〇区役所	0001-01-01	3001	401	0001	10	2	0	27	27221
002	2.08	9.1	002	〇〇郵便局	0001-01-01	3002	401	0001	10	2	0	27	27221
003	2.1	3.1	003		0001-01-01	3001	401	0001	10	1	0	27	27221

先頭の「0（ゼロ）落ち」
のないように注意すること。

属性値を**不明値**とする場合は、
標準製品仕様書に定めた不明値
で付与すること。

➡ 詳細はユーザーマニュアル
及び属性定義書を参照して
ください。

データ準備

➤ 3) 属性定義書

① 依頼内容のチェックシート

依頼内容のご確認									
下記の要件を満たした図形データを求めます。									
地物	LOD	図形データのデータ要件	受け付けるデータ形式		提供素材のデータ形式 お客様記入欄				備考
			図形データ	属性データ	依頼対象項目	数量	図形データ	属性データ	
記入例					○	8	shp	csv	
blgd	LOD0	建築物の外形データ (2Dポリゴン) フィールド名: 建築物識別子 = [LOD1ID] LOD0ポリゴン+標高 (地盤高) → 建築物そのものの属性	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
blgd	LOD1	建築物の外形データ (2Dポリゴン) フィールド名: 標高 (地盤高) = [min_z], LOD1立ち上げ高さ = [lod1_h], 単位: m フィールド名: [建築物の識別番号], [境界面区分] obj ex: 18100_GroundSurface.obj, 18100_RoofSurface.obj, 18100_WallSurface.obj ※標準製品仕様書 第 4-10	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
blgd	LOD2	建築物の外形データ (2Dポリゴン) フィールド名: [建築物の識別番号], [境界面区分] obj ex: 18100_GroundSurface.obj, 18100_RoofSurface.obj, 18100_WallSurface.obj ※標準製品仕様書 第 4-10	obj	—		建築物数			
tran	LOD1	交通 (道路) ※標準製品仕様書 第 4-17	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
luse	LOD1	土地利用 ※標準製品仕様書 第 4-53	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
fld	LOD1	洪水浸水リスク	shp	dbf		—			
trm	LOD1	河川浸水リスク	shp	dbf		—			
htd	LOD1	管渠浸水リスク	shp	dbf		—			
rfd	LOD1	内水浸水リスク	shp	dbf		—			
rld	LOD1	外水浸水リスク	shp	dbf		—			
lald	LOD1	土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の形状 (2Dポリゴン) ※標準製品仕様書 第 4-56	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
urf	LOD1	都市計画区域	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
urf	LOD1	都市計画区域	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
urf	LOD1	区域区分	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
urf	LOD1	用途地域	shp	dbf (csv, xlsx)		—			
dem	LOD1	地形モデル (5m 間隔) ●標高をもつ点の集まり ①3Dポイント ②3Dポイント+標高の属性 ※フィールド名: 標高 = [z] ③平面直角のXYZ座標が並び、スペース区切りのtxtデータ ④平面直角のXYZ座標が並び、csvデータ ●標高をもつ点から構成する三角形の集合 (3Dポリゴン) ※標準製品仕様書 (第 3 次地域区画) 単位	shp (csv, txt)	dbf (csv, xlsx)		—			
README	—	—	—	—		—	—	—	
メタデータ	—	—	—	—		—	—	—	
objectlist・拡張製品仕様書	—	—	—	—		—	—	—	
標準資料	—	—	—	—		—	—	—	
③オプション項目の入力フォームに情報をご記入ください。						—	—	—	

依頼する項目に○を付けてください。

ご提供いただく属性データのデータ形式を記入してください。

ご提供いただく図形データのデータ形式を記入してください。

①依頼内容のチェックシート

②主観属性の要件定義

③オプション項目の入力フォーム

④各地物の要件チェックシート

属性のデータ記述型定義

拡張コードリスト

準備完了

データ準備

➤ 3) 属性定義書

① 依頼内容のチェックシート

1)
依頼対象となる項目に○つける。

地物	LOD	提供素材のデータ形式 お客様記入欄			
		依頼対象項目	数量	図形データ	属性データ
記入例		○	3	shp	csv
建築物	LOD0	○	—	shp	dbf
	LOD1	○	—	shp	dbf
	LOD2	○	120	obj	—
交通（道路）	LOD1		—		
土地利用	LOD1		—		
洪水浸水災害リスク	LOD1	○	6	shp	dbf
津波浸水災害リスク	LOD1				
高潮浸水災害リスク	LOD1				
内水浸水災害リスク	LOD1				
ため池浸水災害リスク	LOD1				

データ準備

➤ 3) 属性定義書

① 依頼内容のチェックシート

2) 地物の数量

建物LOD2：建物○棟

浸水想定区域：○河川

地物	LOD	提供素材のデータ形式 お客様記入欄			
		依頼対象項目	数量	図形データ	属性データ
記入例		○	3	shp	csv
建築物	LOD0	○	—	shp	dbf
	LOD1	○	—	shp	dbf
	LOD2	○	120	obj	—
交通（道路）	LOD1		—		
土地利用	LOD1		—		
洪水浸水災害リスク	LOD1	○	6	shp	dbf
津波浸水災害リスク	LOD1				
高潮浸水災害リスク	LOD1				
内水浸水災害リスク	LOD1				
ため池浸水災害リスク	LOD1				

データ準備

➤ 3) 属性定義書

① 依頼内容のチェックシート

3)

提供するデータのデータフォーマットを入力する。

地物	LOD	提供素材のデータ形式 お客様記入欄			
		依頼対象項目	数量	図形データ	属性データ
記入例		○	3	shp	csv
建築物	LOD0	○	—	shp	dbf
	LOD1	○	—	shp	dbf
	LOD2	○	120	obj	—
交通（道路）	LOD1		—		
土地利用	LOD1		—		
洪水浸水災害リスク	LOD1	○	6	shp	dbf
津波浸水災害リスク	LOD1				
高潮浸水災害リスク	LOD1				
内水浸水災害リスク	LOD1				
ため池浸水災害リスク	LOD1				

データ準備

➤ 3) 属性定義書

②主題属性の要件定義

主題属性の要件定義									
3D都市モデル									
地物名	属性名/関連役名	主題属性、空間属性、関連役の区分	説明	作成対象	不明入力	データ記述型	コードリスト	提供素材	
								属性名称	お客様記入欄
								属性名称	属性名称
								属性名称	備考欄
								属性名称	備考欄
記入例	gml:name	主題	名称	○		gml:StringOrRefType		name	○
3D都市モデル	gml:name	主題	名称	○		gml:StringOrRefType		name	○
3D都市モデル	core:creationDate	主題	データ作成日	●	○	xs:date		creationDate	○
3D都市モデル	bidg:area	主題	区分	○	○	gml:CodeType	Building_area.xml	area	○
3D都市モデル	bidg:usage	主題	用途	○	○	gml:CodeType	Building_usage.xml	usage	○
3D都市モデル	bidg:yearOfConstruction	主題	建築年	○	○	xs:gYear		yearOfConstruction	○
3D都市モデル	bidg:measuredHeight	主題	計測高さ	○	○	gml:LengthType		measuredHeight	○
3D都市モデル	bidg:storeysAboveGround	主題	地上階数	○	○	xs:nonNegativeInteger		storeysAboveGround	○
3D都市モデル	bidg:storeysBelowGround	主題	地下階数	○	○	xs:nonNegativeInteger		storeysBelowGround	○
3D都市モデル	bidg:lodFootprint	空間	lod0足跡面	○	○	-		lodFootprint	○
3D都市モデル	bidg:lod1Solid	空間	lod1立体	○	○	-		lod1Solid	○
3D都市モデル	bidg:lod2Solid	空間	lod2立体	○	○	-		lod2Solid	○
3D都市モデル	uro:buildingDAttribute	関連役	建物識別情報	●	○	xs:string		buildingDAttribute	○
3D都市モデル	uro:buildingID	主題	建物ID	●	○	xs:string		buildingID	○
3D都市モデル	uro:prefecture	主題	都道府県	○	○	gml:CodeType	Common_localPublicAuthorities.xml	prefecture	○
3D都市モデル	uro:city	主題	市区町村	●	○	gml:CodeType	Common_localPublicAuthorities.xml	city	○
3D都市モデル	uro:buildingDetailAttribute	関連役	建物利用状況	○	○	-		buildingDetailAttribute	○
3D都市モデル	uro:siteArea	主題	敷地面積	○	○	gml:MeasureType		siteArea	○
3D都市モデル	uro:totalFloorArea	主題	延床面積	○	○	gml:MeasureType		totalFloorArea	○
3D都市モデル	uro:buildingFootprintArea	主題	建築面積	○	○	gml:MeasureType		buildingFootprintArea	○
3D都市モデル	uro:buildingStructureType	主題	構造種類	○	○	gml:CodeType	BuildingDetailAttribute_buildingStructureType.xml	buildingStructureType	○
3D都市モデル	uro:fireproofStructureType	主題	耐火構造種類	○	○	gml:CodeType	BuildingDetailAttribute_fireproofStructureType.xml	fireproofStructureType	○
3D都市モデル	uro:surveyYear	主題	調査年	●	○	xs:gYear		surveyYear	○
3D都市モデル	uro:bidgDisasterRiskAttribute	関連役	洪水浸水リスク	○	○	-		bidgDisasterRiskAttribute	○

データ準備

➤ 3) 属性定義書

②主題属性の要件定義

		提供素材	
属性名称		お客様記入欄	
	整備属性		
name	○	名称	
name			
creationDa	○	date	
class	○	区分	

1)
整備対象となる属性に○つけする。

データ準備

➤ 3) 属性定義書

②主題属性の要件定義

		提供素材	
属性名称		お客様記入欄	
	整備属性	属性名称	備考欄
name	○	名称	
name			
creationDa	○	date	
class	○	区分	

データ準備

➤ 3) 属性定義書

②主題属性の要件定義

属性定義書			
属性名称	属性データ		
	属性名	属性型	属性値
name	○	名称	
creationDa	○	date	
class	○	区分	

属性データのフィールド名称は原則としてこちらで定義した名称を使用すること。

整備属性

データ準備

➤ 3) 属性定義書

②主題属性の要件定義

2)定義した名称を使用することが
難しい場合は対応する属性のフィー
ルド名称をこちらに記入するよう
にお願いします。

		提供素材	
		お客様記入欄	
		属性名称	備考欄
		名称	
name			
creationDa	☐	date	
class	☐	区分	

データ準備

➤ 3) 属性定義書

③オプション項目の入力フォーム

README、メタデータ、objectlist・拡張製品仕様書、原典資料リストなどの
付属ドキュメントの作成を希望される場合にご記入ください。

ドキュメント名	属性名称	入力例	お客様記入欄
README	整備区域名 建物LOD1	都市計画区域	
README	整備区域名 建物LOD2	市街化区域	
README	整備区域名 道路	都市計画区域	
README	整備区域名 地形	市域全域	
メタデータ	依頼者名	国土交通省 都市局 都市政策課	
メタデータ	依頼者 郵便番号	〒100-8918	
メタデータ	依頼者 住所	東京都千代田区霞ヶ関2-1-3	
メタデータ	依頼者 電話番号	XX-XXXX-XXXX	
メタデータ	依頼者 FAX	XX-XXXX-XXXX	
メタデータ	依頼者 Email	hqt-mlit-plateau@mlit.go.jp	
objectlist・拡張製品仕様書	データ製品の問い合わせ先名	国土交通省 都市局 都市政策課	
objectlist・拡張製品仕様書	データ製品の問い合わせ先 郵便番号	〒100-8918	
objectlist・拡張製品仕様書	データ製品の問い合わせ先 住所	東京都千代田区霞ヶ関2-1-3	
objectlist・拡張製品仕様書	データ製品の問い合わせ先 電話番号	XX-XXXX-XXXX	
objectlist・拡張製品仕様書	データ製品の問い合わせ先 FAX	XX-XXXX-XXXX	
objectlist・拡張製品仕様書	データ製品の問い合わせ先 Email	hqt-mlit-plateau@mlit.go.jp	
原典資料リスト	②主題属性の要件定義シートに情報をご記入ください。		

データ準備

➤ 3) 属性定義書

④各地物の要件チェックシート

ご準備いただいたデータが要件を満たしているか、本チェックシートでご確認ください。

⑤属性のデータ記述型定義

データ記述型の定義文書となります。

目次

- ▶ CityGML変換サービスの概要
- ▶ サービスの利用方法
- ▶ データ準備
- ▶ **補足事項**
- ▶ 追加エラー検査

補足事項

- データの仕様について

本サービスによる成果品は、国土交通省都市局が推進する「Project PLATEAU」の3D都市モデル標準製品仕様書第4.0版に基づきます。

- データの品質について

本サービスはProject PLATEAUが公開される品質検査ツールで検査を行い、エラーのない状態で納品いたします。

- エラーが検出された場合の対応について

図形データの正確性エラー（ジオメトリエラー）が検出された場合、データ修正またはデータの再提供をご依頼します。

※データ差し替えの回数には上限があります。

目次

- ▶ CityGML変換サービスの概要
- ▶ サービスの利用方法
- ▶ データ準備
- ▶ 補足事項
- ▶ **追加エラー検査**

追加エラー検査

- 標準サービスにおけるデータ差し替えの上限について(追加費用なし)

建築物は5回、その他の地物は3回までとします。

- 規定の回数以内にエラーが解消しない場合(有償対応)

有償にて追加検査を承ります。

追加検査は5回単位で購入いただけます。

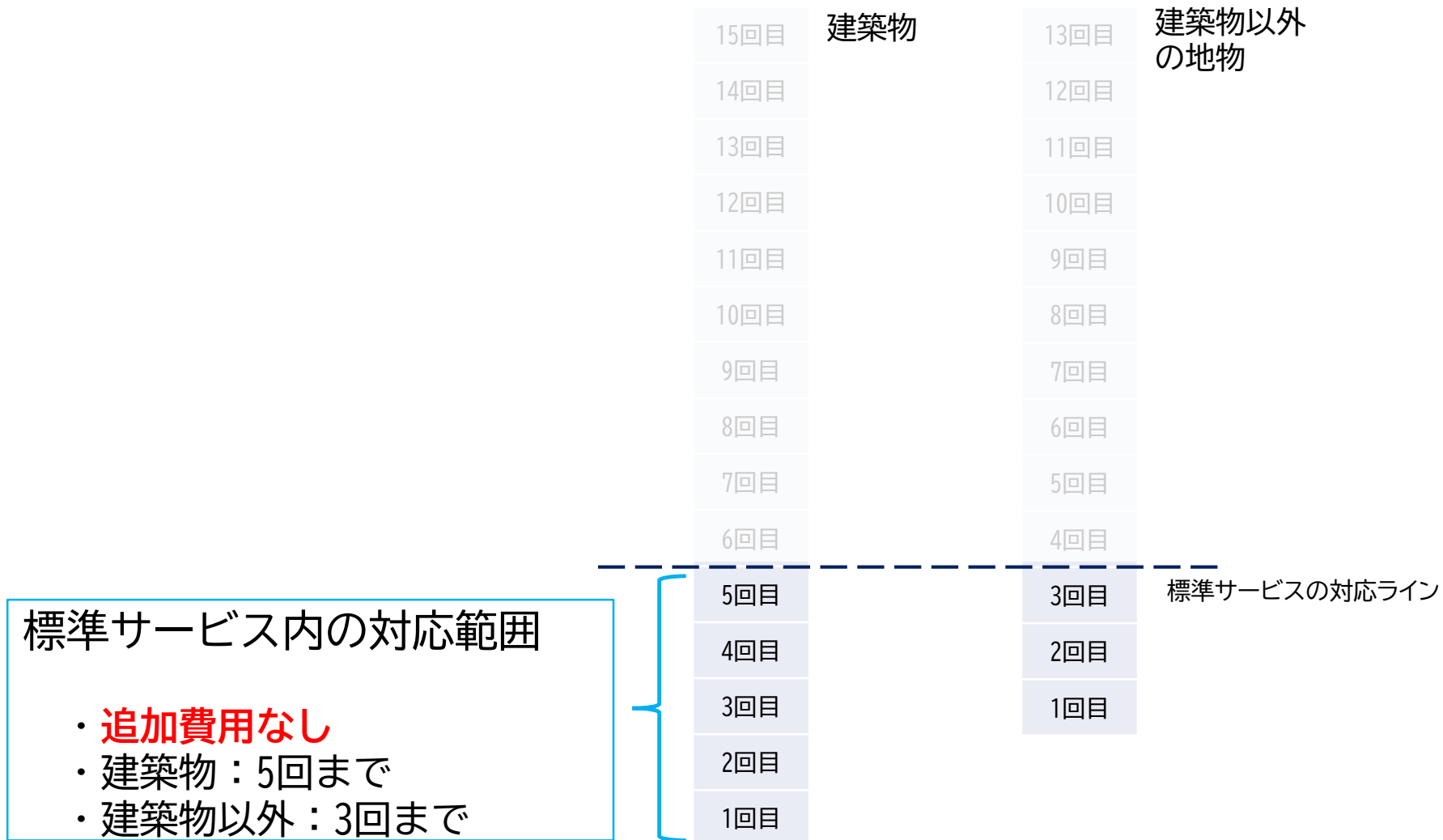
ただし、同一の地物における追加検査の上限は10回とします。

追加検査をご希望されない場合は、エラーが含まれた状態で納品させていただきます。

- 追加検査の回数以内にエラーが解消しない場合

エラーが含まれた状態で納品させていただきます。

エラー検査の対応範囲 (標準サービス内・追加検査)



エラー検査の対応範囲 (標準サービス内・追加検査)

追加エラー検査の対応範囲

- ・ **有償**
- ・ 1地物につき最大10回まで

標準サービス内の対応範囲

- ・ **追加費用なし**
- ・ 建築物：5回まで
- ・ 建築物以外：3回まで

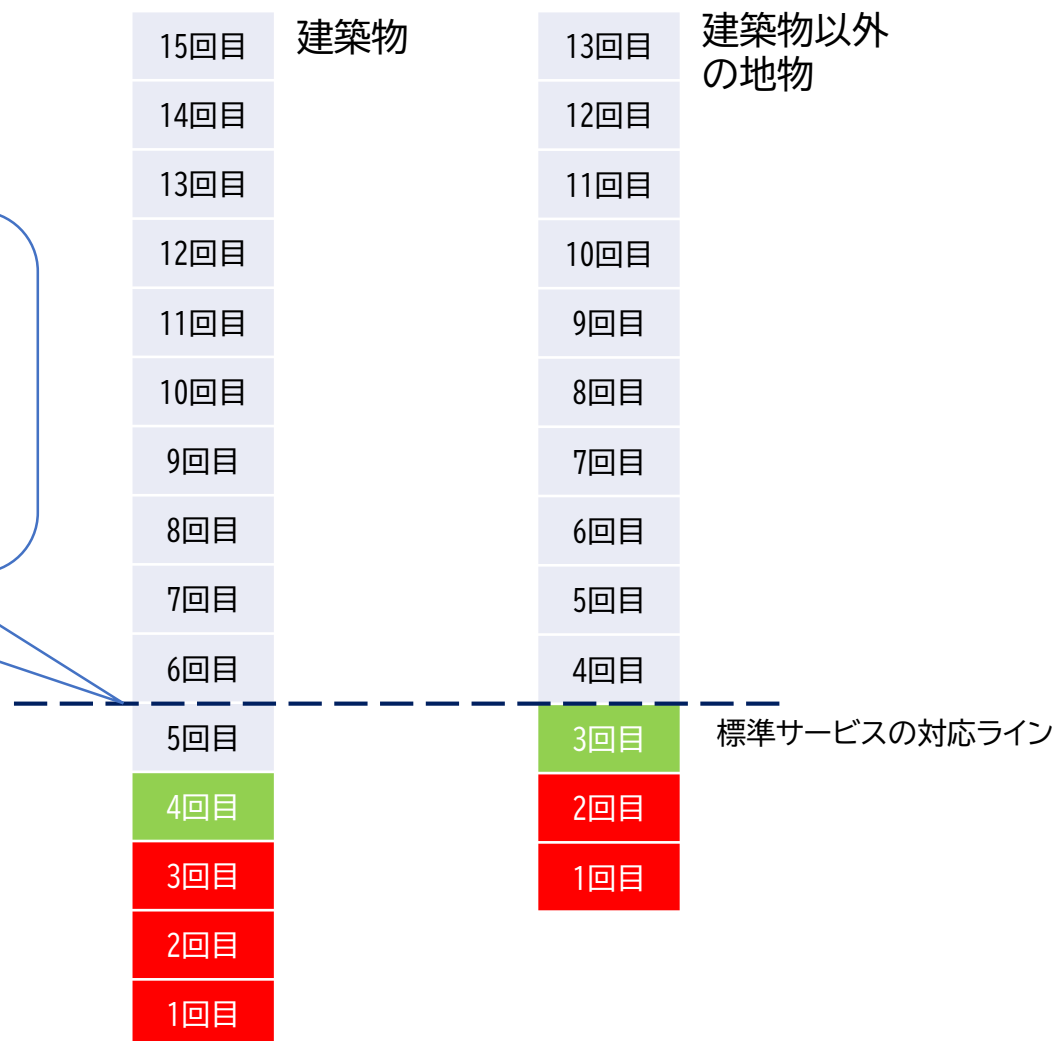
15回目	建築物	13回目	建築物以外の地物
14回目		12回目	
13回目		11回目	
12回目		10回目	
11回目		9回目	
10回目		8回目	
9回目		7回目	
8回目		6回目	
7回目		5回目	
6回目		4回目	
----- 標準サービスの対応ライン -----			
5回目		3回目	標準サービスの対応ライン
4回目		2回目	
3回目		1回目	
2回目			
1回目			

①標準サービスの範囲内でエラーが解消した場合

標準サービスの対応範囲内の
検査回数で、エラーが解消しま
した。

→追加費用は不要です。

 エラーなし
 エラーあり



②標準サービスの範囲内でエラーが解消しない場合

標準サービスの対応範囲内の検査回数で、エラーが解消しませんでした……

→有償で追加検査を承ります。
(5回単位で購入)

 エラーなし
 エラーあり



②標準サービスの範囲内でエラーが解消しない場合

ジオメトリ追加検査:

- ・建築物:6回
(6回目~11回目)
- ・建築物以外:1回
(4回目)

15回目	建築物
14回目	
13回目	
12回目	
11回目	
10回目	
9回目	
8回目	
7回目	
6回目	
5回目	
4回目	
3回目	
2回目	
1回目	

13回目	建築物以外 の地物
12回目	
11回目	
10回目	
9回目	
8回目	
7回目	
6回目	
5回目	
4回目	
3回目	
2回目	
1回目	

標準サービスの対応ライン

エラーなし
エラーあり

全部で7回の追加検査を実施したため、
「ジオメトリ追加検査 (5回)」を
2セット購入いただきます。

適用

1セット目

建築物_10回目
建築物_9回目
建築物_8回目
建築物_7回目
建築物_6回目

2セット目

使用せず
使用せず
使用せず
建築物以外_4回目
建築物_11回目

※使用しなかったエラーの回数分の払い戻しは致しかねます。

③追加検査の上限回数でエラーが解消しない場合

納品データ：
エラーあり

同一地物で追加検査を10回実施してもエラーが解消しなかった場合……
→エラーを含んだ状態CityGMLを納品させていただきます。

エラーなし
エラーあり

15回目	建築物
14回目	
13回目	
12回目	
11回目	
10回目	
9回目	
8回目	
7回目	
6回目	
5回目	標準サービスの対応ライン
4回目	
3回目	
2回目	
1回目	

全部で10回の追加検査を実施したため、「ジオメトリ追加検査（5回）」を2セット購入いただきます。

適用

1セット目

2セット目

建築物_10回目	建築物_15回目
建築物_9回目	建築物_14回目
建築物_8回目	建築物_13回目
建築物_7回目	建築物_12回目
建築物_6回目	建築物_11回目

④追加検査をお申込みされない場合

追加検査を申し込まない場合

→エラーが未解消の地物は、
エラーを含んだ状態のまま
CityGMLを納品いたします。

納品データ：
エラーあり

15回目	建築物
14回目	
13回目	
12回目	
11回目	
10回目	
9回目	
8回目	
7回目	
6回目	
5回目	
4回目	
3回目	
2回目	
1回目	

納品データ：
エラーなし

13回目	建築物以外の地物
12回目	
11回目	
10回目	
9回目	
8回目	
7回目	
6回目	
5回目	
4回目	
3回目	標準サービスの対応ライン
2回目	
1回目	

エラーなし
エラーあり

追加エラー検査(補足)

- 使用しなかった追加検査チケットの取扱い

- ・ 5回単位で購入いただいた追加検査のうち、使用しなかったエラーの回数分の払い戻しは致しかねます。

- 追加検査チケットの利用可能範囲

- ・ 別の都市の地物に適用することはできません。
- ・ 同一の都市であれば、地物を問わずご利用いただけます。（例：建築物に3回、土地利用に2回）

- 標準サービス範囲内のエラー検査は、他の地物に適用不可

- ・ 標準サービス範囲内でエラーが解消した場合、余った回数を他の地物に適用することはできません。

追加エラー検査(補足)

- 使用しなかった追加検査チケットの取扱い

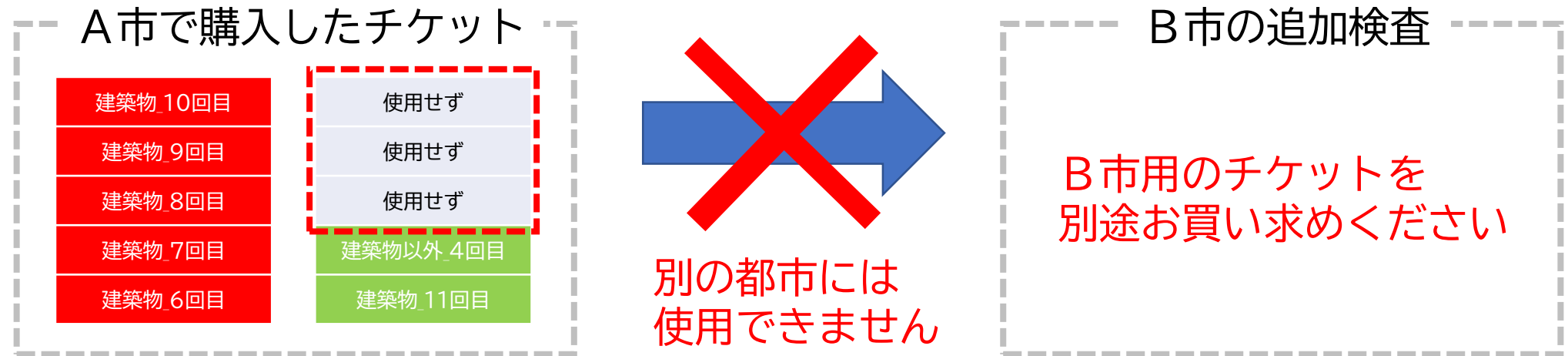
- ・ 5回単位で購入いただいた追加検査のうち、使用しなかったエラーの回数分の払い戻しは致しかねます。



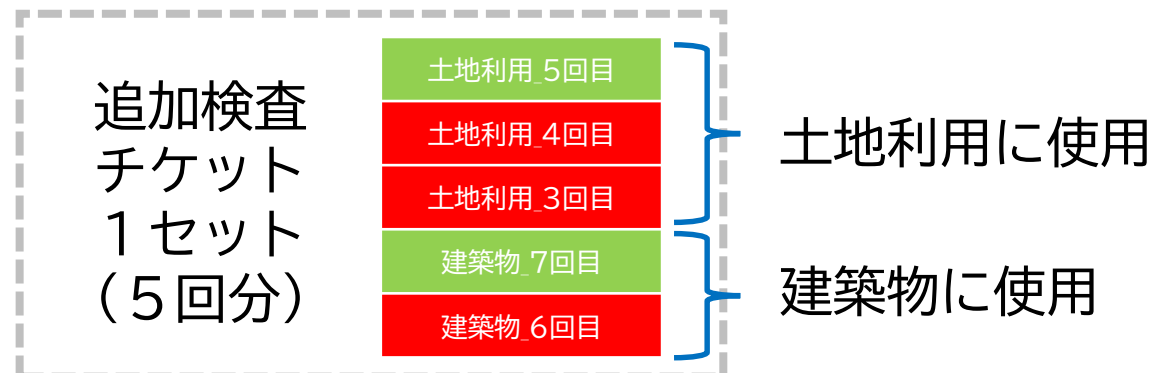
追加エラー検査(補足)

・追加検査チケットの利用可能範囲

- ・別の都市の地物に適用することはできません。



- ・同一の都市であれば、地物を問わずご利用いただけます。（例：建築物に2回、土地利用に3回）



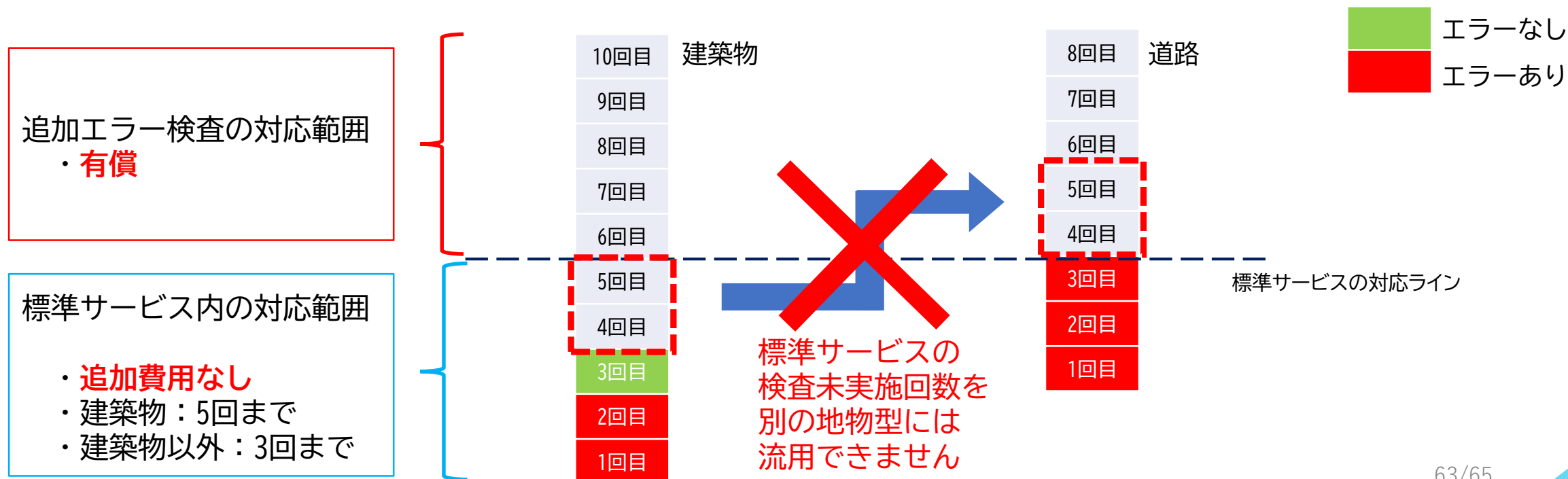
追加エラー検査(補足)

・標準サービス範囲内のエラー検査は、他の地物に適用不可

・標準サービス範囲内でエラーが解消した場合、余った回数を他の地物に適用することはできません。

(例:建築物の検査が、標準サービス範囲の5回中の3回でエラー解消したが、

あまった2回を、他の地物の追加検査としては利用できない)



追加エラー検査(補足)

- 使用しなかった追加検査チケットの取扱い

- 5回単位で購入いただいた追加検査のうち、使用しなかったエラーの回数分の払い戻しは致しかねます。

- 追加検査チケットの利用可能範囲

- 別の都市の地物に適用することはできません。
- 同一の都市であれば、地物を問わずご利用いただけます。（例：建築物に3回、土地利用に2回）

- 標準サービス範囲内のエラー検査は、他の地物に適用不可

- 標準サービス範囲内でエラーが解消した場合、余った回数を他の地物に適用することはできません。

CityGML変換サービスの開始時期

本サービスは、

10月1日(火)よりサービスの受付を開始いたします。

お申し込みをお待ちしております。